

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195300223		
法人名	株式会社 慈光		
事業所名	グループホームはな斜里		
所在地	北海道斜里郡斜里町豊倉50番地		
自己評価作成日	令和6年2月26日	評価結果市町村受理日	令和6年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0195300223-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0195300223-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和6年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・食器を拭く、洗濯物をたたむ、野菜の筋を取るなど、その方のできることを行っていただきながらそれぞれが出来ることを行うという、グループホームらしい生活をめざし日々生活してもらっている。  
・記録に言葉や表情を書くことを意識付けることで、その方の様子などがイメージしやすいことや、個人の理解を深めるきっかけとなるように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成31年現在の法人により移譲開設された「グループホームはな斜里」は現在1ユニットでの運営になっている。母体法人の株式会社慈光は、町内に1ユニットのグループホーム、小規模多機能事業所、サービス付き高齢者向け住宅を開設しており町内の高齢者介護事業の一翼を担っている。「穏やかな笑顔で真心をこめて接します。一人ひとりの願いを大切に優しい言葉で接します。いつも思いやりをもって温かく丁寧に接します。心を通わせ明るい職場を目指します。みんなが安心できる施設を目指します」の法人理念たんぼ憲章を掲示し、毎月の会議で唱和し代表者、管理者、職員全員で実践できるように取り組んでいる。特定技能外国人の職員は理念を翻訳機で母国語に訳し理解に努めている。利用者の思いや希望を実現することを目標に笑顔をもっとに介護に取り組んでおり、利用者、家族から信頼されている。代表者は研修やマンスリーレポート(事業所便り)作成を行っており、研修をインターネット動画にして職員がいつでも見られるように用意している。毎月発行しているマンスリーレポートの内容は認知症に関してや現在の介護保険法に関して等多岐にわたっており、分かりやすく家族が理解できるようになっている。眠りスキャンや、ICTを導入し、日常業務の見直しや改善に取り組み利用者、職員の満足が得られるグループホームを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の際の唱和を通し、意識付けを行っている。今後はYOU TUBE等を活用し代表者の理念に対する考え方等を全員が同じように共有出来るよう工夫をしていく予定である。	法人及びグループホーム理念「たんぼぼ憲章」を掲示し職員会議で唱和している。外国籍の職員は翻訳して理解に努め全員が共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の美容室の方に訪問してもらったり、出初め式に来てもらう、御神輿巡業を見に行くなど地域とのつながりを大切にできるような努力している。	感染症流行の影響でこれまで通りの交流は出来ていないが、今年度に入り地域のお祭りも復活しており見物に出かけている。以前は炊き出し等の防災訓練を一緒に行った事があり、今後は避難訓練を共に行う事を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	そのような機会を設けることはできていないが、町として今年度認知症の講演会を数回に分けて実施していたので、協力できるようになることができれば良いと思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症等の流行で、日程の変更はあるものの開催することができており、ご家族や地域の方からのご意見を取り入れる事ができている。	運営推進会議は系列の2事業所と合同で開催しており今年度は9月から再開している。利用者家族、住民代表、有識者、町担当者を委員とし町防災担当者が講師で防災勉強会や訓練に取り組んでいる。	感染症の流行で今年度後半からの開催であり、年6回の開催と家族、職員と内容等の情報を共有し運営に活用することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の地域福祉課と連携を図り、情報共有を行っている。地域連携会議を町が実施してくれているため、その会議への参加で施設の現状を伝える機会となっている。	地域連携会議には管理者、計画作成担当者が出席し他の事業所との情報交換を行っており、町担当者とは管理者が報告書提出や現状報告で訪問し積極的に協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議の際、現状身体拘束にあたる行為がないこと確認している。	身体拘束廃止に向けては毎月の職員会議の中で身体拘束に該当する事例が無いかを検証している。また、年2回研修を行い禁止行為や身体拘束の弊害を正しく理解している。	身体拘束廃止委員会、虐待防止委員会それぞれの議事録作成と、研修議事録の整備を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケアの研修等を行い、虐待に繋がりがかねない事案についても意識するよう努力している。		

グループホームはな斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修は実施しているが、具体的な後見人制度等の内容までは踏み込めて居ないため今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今回の料金改定に関しても、運営推進会議での説明、家族への毎月のレターでの説明を経て、具体的な料金の説明の文書を送る事とし、理解をいただけるよう努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置を行ってはいるが、聞き取り等は行っていない。	利用者、家族の意見や要望は日常の会話の中で把握し、家族とは面会や電話連絡時に把握していたが、近年はメッセージアプリやメールでの交換が多くその中で把握することが多い。請求書発送時にマンスリーレポートと写真を同封しグループホームの現状を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談やちょっとした会話の中で出た意見に関して、代表者へと伝える事はできている。	職員の意見や提案は業務の中や会議で代表者、管理者は把握する様努めている。研修は代表者の作成したインターネット動画の中でそれぞれが閲覧して取り組んでいる。その他メールやメッセージアプリでの情報提供や指導を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新たに、介護の主となる役職を設ける予定で有り、その者に対する評価(金銭面等含む)を実施し、それを目標とする形を取ることができればと考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特定技能者への介護福祉士国家試験対策や、日本語検定対策等行う事はできているが、日本人へのスキルアップの対策は十分とはいえない状況である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催の研修会や、他施設の職員が集まる機会への参加は実施出来ているが、管理者が主となり介護職員にも広げることが目標である。		

自己評価	外部評価	項目		自己評価		外部評価	
				実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		この1年間新規の入居者がおらず実施はしていないが、ご本人やご家族から話しを聞く機会を設けるよう努力している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている		最初は特にライン等を用い、様子を文章や写真でお伝えすることを行えるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		生活していただく中で、どこが可能でどこに協力が必要なかを判断するよう、細かく記録を行うようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		GHの特性を活かし、家事等を通じ出来ることを行ってもらい、感謝の気持ちは必ず伝えるようにしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている		ご家族様にも、状況を伝え相談をしながらご本人にとって暮らしやすくなるようご協力を頂いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		コロナの移行により、親戚の方が尋ねてきたり遠方の家族も会いに来ることが出来るようになっていく。		感染症の影響で知人の訪問や外出は制限していたが、感染症法上5類への変更後は利用者の理容店、美容室訪問の希望があり事業所でも対応し馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている		お互いが名前を覚え、声を掛け合う様子が見られるようになってきている。			

グループホームはな斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実例はないが、そのような相談があった際には、受け入れる体制をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの聞き取りが難しい場合ご家族から聞き取るなどして、なるべくご本人の安心に繋がるよう意識している。	利用者の思いや暮らし方の希望は当初の生活歴や家族からの情報、また日常会話から聞き取り、職員で情報共有し希望に沿うように努めている。終末期の迎え方についても終末期医療に関する事前指示書で確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の今までの生活リズムや習慣、好みなどになるべく近い生活ができるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情、言葉、行っていた事など記録し共有できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や関係機関も交えたモニタリングは全員は行う事はできていないが、必要に応じ訪問診療医と家族がそろった場での話は行う事が出来ている方もいる。	3か月ごとにモニタリングを行っている。介護計画は概ね1年で利用者、家族の要望を受けながら、職員のカンファレンス、モニタリングで見直しを行い現状に即したサービス提供に努めている。介護記録には利用者、家族、職員の会話を記号で表示し分かりやすく工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の表情や言葉を多く書いてもらうことにより、ケアプランや対応に活かすよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り柔軟に対応出来るようにしているが、全てをかええることは難しい場合が多くある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分に心身の力を発揮しているとはいえない状況である。もっと、地域資源の活用を促進する必要がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師はもちろんのこと、MSWの協力も得ながら医療を受けることができていると思う。	かかりつけ医へ事業所の対応で受診しているが、家族にも同行をお願いしている。その他訪問診療の利用者もいる。看護師資格の職員が在籍しており24時間対応可能で健康管理に努めている。	

グループホームはな斜里

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	記録や報告を通し情報を伝えてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	普段の受診や、訪問診療時、入院時などMSWと連携を図り、協力体制を取ることができている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階にご家族への説明と現段階での意思調査を行い、訪問診療が入った段階でも再度医師からの説明を受けた上での意思確認を行っている。	契約時に重要事項説明書追加文書で「重度化した場合における当グループホームの考え方について」「重度化した場合における対応」で説明し理解を得ている。利用時における終末期要事項、事前指定書で意向を把握して医師、家族と連携し取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同じ法人内の他施設と合同で救急救命訓練の実施を行ったり、特定職員への連絡の仕方のレクチャー等実施し、安心して夜勤等あたれるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害の訓練を実施し、いざというときに慌てないようにしている。訓練の際、消防、町、自治会に入居職員の居場所を伝えている。	基本的に年2回火災の避難訓練に取り組んでいる。今年度は消防組合消防本部主催の「消防訓練実務研修会」に代表、職員が参加している。また、年度内に消防署の指導を得て夜間想定で避難訓練の実施を予定している。災害時、停電対策の備蓄品を用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時折不十分な言葉かけが見られることから、お互いに注意をできるようにしなければいけない。	認知症、倫理、法令順守身体拘束、虐待防止の研修を行いその中で言葉遣いや声かけについて研修し、人格を損ねない対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を提示したり、筆談するなど、本人が選択する方法を複数用意しなるべく意思を確認できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合での、言葉かけ、誘導が見られることがあるため、今後の課題として全職員が徹底しなければならないと考える。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室内の衣類を定期的に整頓することにより、いつも同じ洋服になりがちになることを防ぐようにしている。		

グループホームはな斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	粥食の方でも、寿司やおにぎりなどの際は皆と同じ形態で提供するなど、安全を確保しながらも楽しく食事ができるように調理職員と協力している。	献立、調理は担当職員が在籍し、昼・夕食を担当している。行事、誕生日にはその季節の物や希望を聞き、楽しい食事になるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	こまめな声掛けや水分の種類を増やすなどして、なるべく苦痛なく水分を摂取してもらえるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助などで9割の入居者が毎食後の口腔ケアができています。全員が目標である。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間での声掛けや腹圧がかかるようなマッサージ等でなるべくトイレでの排泄と、陰部の清潔が保てるようにしている。	排泄記録を作成し時間間隔や習慣、動向を把握しトイレでの排泄支援を行っている。利用者一人ひとりの量や回数を把握しその人にあった下着やパッドを使うように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホットパックやマッサージ、飲み物など様々な工夫をして排泄がしやすいように声を掛け合い行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したことを忘れてしまい、1w入っていないとの声上がった際、すぐに対応し予定外の入浴対応してくれるなど柔軟に職員が動いてくれている。	最低でも週2回は入浴できるように取り組んでいる。シャワー浴や清拭、利用者の状況や状態に応じて柔軟な支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴等の疲労感を予測し、食事の時間をずらすなどの対応ができています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や副作用等の理解は難しいのが現状である。少しずつ理解を深めるための学習が必要と思われる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩に行ったり、塗り絵や制作、トランプ等様々な機会を通してご本人の力を発揮してもらっている。		

グループホームはな斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年末に自宅に帰省をしたり、散歩や近隣スーパーへの買い物等行くことができている。	感染症の影響で外出は少なくなっていたが、今年度は感染対策をして近隣のスーパーマーケットやドラッグストアへ買い物に行ったり、お祭りに出かけている。前庭での外気浴や近くを散歩したり、花壇の整備を楽しみ気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替という形ではあるが、訪問販売のパンなどを自身で選び、支払いをもらうなどを行うことができている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族とテレビ電話をしたり動画を撮影して送るなど出来る方には行っていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	様々な機械の電子音がすることが多く、気になってしまいう入居者もいるため、今後機器の変更や音量の調整等必要である。	建物の廊下は広く回廊式で、歩行のリハビリが出来るようになっている。日当たりがよく明るい居間には加湿器が設置され、各居室は24時間の換気システムが整い、温湿度等の環境調整がされている。季節の飾りや写真で楽しい雰囲気が感じられるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は一人部屋であるため、そこで過ごしたり、デイルームでも自身で動いたり、そこへ行きたい等思い思いの場所で過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や家族との写真、自宅から持ってきた物を置くことにより、ご本人らしい部屋になるようにしている。	居室はクローゼット、ベッドが設置され、利用者は自宅から筆筒や椅子等の使い慣れた家具を持参している。家族の写真や絵を飾り居心地のよい居室になるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歯磨きの手順を書いた紙をはったり、本日のメニューをホワイトボードに書いてもらう等している。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホームはな斜里

作成日：令和 6年 3月 22日

市町村受理日：令和 6年 3月 25日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	今年度の運営推進会議の開催が6回に満たず、また会議に参加していないご家族がいつでも見ることができない状況ではない。	確実に2ヶ月に1度の開催を遵守する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の流行等の時には、文書での配布で開催とできるように準備する。</li> <li>・家族からの意見を広く聞くために、請求書等に意見を募る物を同封する。</li> <li>・HP等での会議録の公表も提案を受けたが、HP作成の予定がないため、請求書に封入する、ご家族にデータで送る等を検討する。</li> </ul>	1年
2	6	身体拘束委員会、虐待防止委員会等の実施記録が通常の会議記録と同じ議事録に記載されている。	それぞれの議事録を作成し、ファイリングする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の中で実施することは変わらないが、別に書類の形式を整え、別にファイルすることでしっかりと整理をする。</li> </ul>	1年
3		職員研修の際、欠席した職員も後から確実に研修を行った事がわかるようにする事が必要	全職員が研修を受けた事がわかるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員に会議資料と共に、報告書を渡し欠席した職員に関しては、自ら資料の読み込みや必要によっては資料動画視聴し必ず報告書を提出してもらう。</li> </ul>	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。